

地域創生学群成果発表会 SUPER LIVE 2024

地域創生特講2の総括 UPMとの交流活動

発表者：2年高木颯太・齊野平青空



地域創生学群特講2・概要

・ 目的 / THE PURPOSE

東南アジアの新興国における課題解決型学習を体験することで、**従来の先入観を払拭しグローバルな視野を獲得し、多様な視野で試行できる異文化理解力や、不確実な世界に対応できるマインドセットを身に付け、ひいては今後の大学生活、特に日本国内の地域活動への学習意欲を高め、将来のキャリアを描く手掛かりを得ることを目指す。**

・ 受講者 / STUDENTS 計20名

- ・ 3年生 女子生徒 7名
- ・ 2年生 女子生徒 6名 男子生徒 7名

地域創生学群特講 2 ・ スケジュール

9月～10月 事前学習

11月14日 出国（上海・シンガポールを經由）

11月15日 マレーシアに到着

11月16日 UPM訪問・サッカーマレーシア代表戦観戦

11月17日 UPM学内ロゲイニング・文化交流パーティー

11月18日 クアラルンプール市内都市探索ゲーム

11月19日 シンガポール観光

11月20日 帰国

事前学習



グループに分かれ、マレーシアの「歴史」「言語」「食文化」「都市交通」「スポーツ」等の各テーマ毎に、調べ学習を行い、プレゼンを行った。マレーシアの基礎知識をアウトプットを通して身につけた。研修内における、活動の提案も行われた。

Day.3_マレーシアのスポーツ



FIFA WORLD CUP 26™ AFC QUALIFIERS MALAYSIA VS. REPUBLIK KYRGYZ
の試合を受講生・指導教員にて現地で観戦した。東南アジアのプロスポーツ
ビジネスの現場や文化、雰囲気を感じることができた。また、スタジアムまで
は現地の公共交通機関を利用し、現地の交通文化を体感することもできた。

UPMとは？

- 概要 / OUTLINE

- 大学名：UNIVERSITY PUTRA MALAYSIA

- 設置主体：国

- 規模 学生数：約29,000人（学部生：17,000人、大学院生：約12,000人）

- 教員数：約1,800人

- 沿革 1931年：農業学校として設立

1947年：マラヤ農業大学（THE COLLEGE OF AGRICULTURE MALAYA）に改組

1971年：マラヤ大学農学部門と合併（UNIVERSITI PERTANIAN MALAYSIA）

1997年：現在の名称となる



UPMとは？



2019年7月19日：

UPMスポーツセンターと地域創生学群の間でMOU（MEMORANDUM OF UNDERSTANDING：基本合意書）を締結

2019年11月4日～10日：

地域創生学群の学生25名、教員3名がUPMを訪問
野球マレーシア代表チーム、UPM野球チームとの交流試合や、地域の幼稚園生や小学生を対象とした野球教室を開催
その他、滞在期間中、UPM学生とのスポーツ交流、文化交流を実施。最終日はプトラジャヤ市内、クアラルンプール市内の観光を行った。

Day.1-2__出国・マレーシアに到着



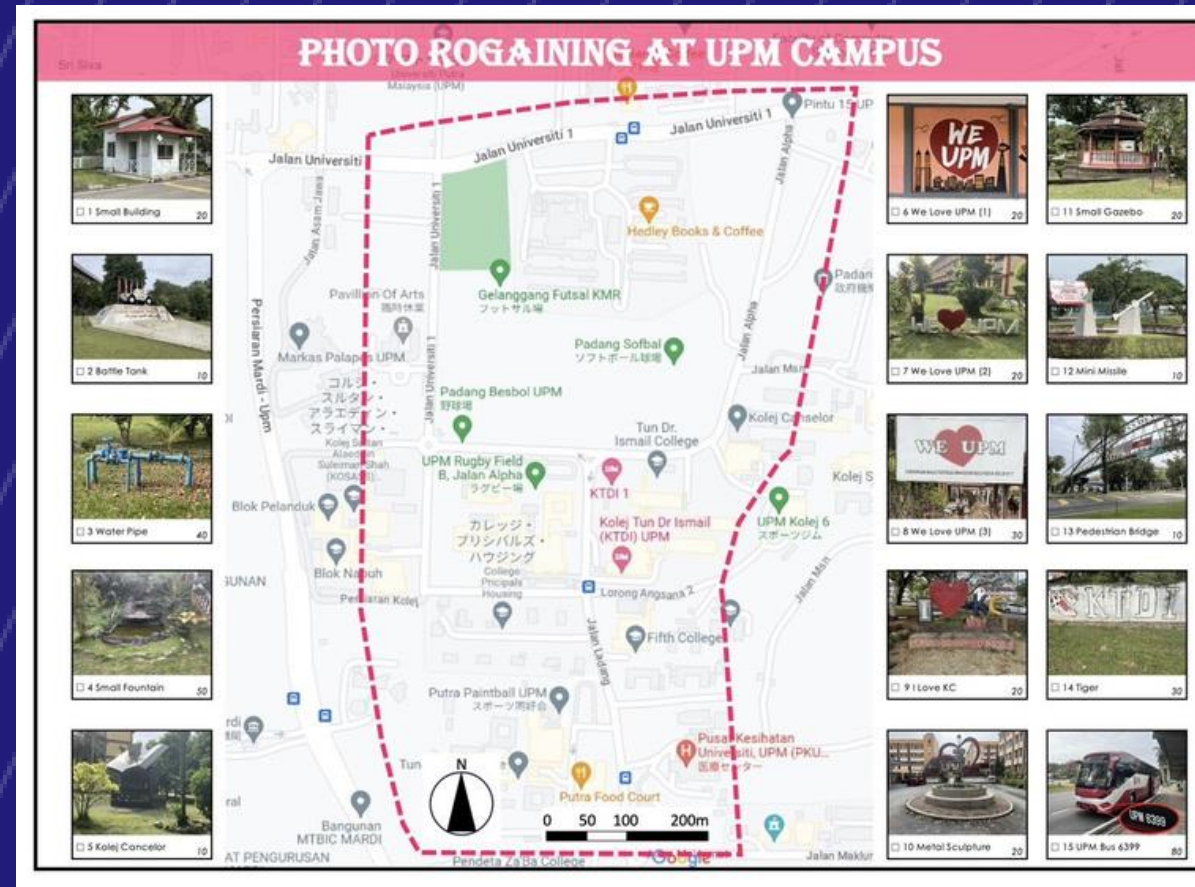
11月14日午後に福岡空港を出発。その後、上海を經由し、シンガポール「チャンギ空港」に到着。そこから陸路で、クアラルンプール市内まで高速バスを利用し、移動した。

Day.3__UPM訪問



午前中は、UPMの生徒からマレーシアの言語や文化についての説明を受け、学生間で自己紹介なども行なった。午後には、大学構内の学食に訪問し、現地の食文化を体感した。また、大学内の植物園にUPM学生・教員と訪れ、現地の果実を食べながら、交流した。

Day.4__UPM学内ロゲイニング・文化交流パーティー



午前中は、UPMの学生と共に、学内のロゲイニングを行なった。
特定のスポットを搜索する際には、現地の学生と協力しながら、活動できた。
夕方からは、フェアウェルセレモニーとして、現地の学生による伝統芸能の披露、本学生徒による出し物を行い、文化交流を行なった。

Day.5-6.クアラルンプールロゲイニング・シンガポール観光



帰国後の繋がり



研修での学びや感想

- ・学んだこと

先入観・固定概念を取り払う大切さ

文化や価値観などその国の実態は現地に行くからこそ得れる学び挑戦する大切さ

→自分の行動から生まれた結果に失敗はないことに気づけた

→多様な文化や価値観に触れ、自分自身の考えに自信を持てた

- ・今後に向けて

将来のキャリアの選択肢が広がった